

**Influences of the 2016 Kumamoto Earthquakes on children
who required clean intermittent catheterization**

里地 葉（熊本市民病院）



この度は優秀論文賞（学会誌部門）に選出いただき誠にありがとうございました。

本論文は2016年4月に発生した熊本地震によって、間欠導尿を施行している小児患者やその保護者がどのような影響を受けたかを、保護者へのアンケート調査と地震前後の尿検査をもとに検討した研究です。熊本地震では建築物の倒壊やライフラインの被害以外に、長期にわたって規模の大きな余震が頻発したことによる車中泊が社会的にも問題となりました。平常時とは異なる環境での導尿に対する患児の不安、保護者のとまどいは導尿回数の減少につながりました。恥ずかしながら災害を想定した患者指導をしていなかった結果と考えております。この教訓をもとに現在はパンフレットを作成し患者・家族の啓蒙に努めています。また今回の検討では導尿物品の不足を認めた例はありませんでしたが、かかりつけ医自体が被災して対応できない場合など、様々な状況を想定して県内・県外のネットワークを作っておく必要があると痛感いたしました。これらの経験・反省を踏まえた論文となっております。ぜひご一読いただければと思います。

私は関西で生まれ育ちましたが、縁あって熊本の地で泌尿器科医となりました。泌尿器科医として最初に触れた分野は神経因性膀胱であり、そこから二分脊椎症、そして小児泌尿器科の世界を知りました。当時の熊本の小児泌尿器科診療は有志が細々と独自に行っている状態であり、私は「小児泌尿器科医になります！」と宣言したものの、やはり自分の狭い世界の中での手探り状態でした。そんな中、佐賀大学泌尿器科とのご縁をいただき、国内留学をすることで自分の世界を大きく広げる後押しをしていただきました。いただいたご縁を大切に、熊本の小児泌尿器科診療を充実させ、後続に伝える医療者となるよう今後も精進いたしますので、皆さま何卒宜しくお願い致します。

最後になりましたが、本論文を丁寧に査読しよりよいものにしていただいた先生方、選考に携わっていただいた先生方、誠にありがとうございました。